



臨済宗大本山 東福寺で現代アートが響き合う ディレクター・アドバイザリーボードとAFKゆかりのアーティストによる展覧会 「AFK Resonance Exhibition」開催決定

開催期間：2026年2月21日(土)～3月1日(日)



建築、庭園、創造が呼応する。東福寺の展示エリア拡張へ

歴史ある京都を舞台にしたアーティスト主導のアートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO 2026」[略称：AFK2026]（主催：京都府、京都新聞、ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会）は、2026年2月21日(土)～3月1日(日)まで、臨済宗大本山 東福寺（以下、東福寺）を舞台に、ディレクター・アドバイザリーボードとAFKゆかりのアーティストによる展覧会「AFK Resonance Exhibition」を開催いたします。

本展タイトルの「Resonance(レゾナンス)」は、「共鳴」を意味します。アドバイザリーボードとAFKゆかりのアーティスト、その一人ひとりが持つ創造性と東福寺という歴史的な空間など、さまざまな要素の響き合いを通して、新たな表現の広がりを生み出すという想いが込められています。

9回目の開催を迎えるAFKは、これまで継続的に若手アーティストの育成支援に取り組んできました。その成果として、過去に参加したアーティストが国内外で活躍する姿も多く見られるようになってきました。こうした流れを受け、今回は初の試みとして、過去の出品アーティストの中から本展の趣旨に共鳴する5組を選定。ディレクター・椿昇をはじめ、アドバイザリーボードの大巻伸嗣、加藤泉、新たに参加した鷹野隆大ら、第一線で活躍するアーティストとともに代表作や新作を披露する特別展を開催いたします。

会場は、前回会場となった方丈をはじめ、紅葉の名所・通天橋の周辺庭園、日本画家・堂本印象の蒼龍図が天井を飾る本堂前、静謐な大慧殿周辺など、東福寺を象徴する屋外空間へ展示エリアを拡張いたします。境内を吹き抜ける風や、時の移ろいを映す庭の草木、木々の間を縫う光の揺らぎなど、東福寺ならではの風景に呼応しながら、現代アートが新たな視点をもたらします。創造の共鳴が満ちるひとときを、ぜひ東福寺でご体感ください。



臨済宗大本山 東福寺（方丈）2025年の様子



■ 臨濟宗大本山 東福寺について

摂政九條道家が奈良における最大の寺院である東大寺に比べ、また奈良で最も盛大を極めた興福寺になぞらえようとの念願で「東」と「福」の字を取り、京都最大の大伽藍を造営したのが慧日山東福寺です。嘉禎2年(1236年)より建長7年(1255年)まで実に19年を費やして完成しました。

なかでも、東福寺本坊庭園(方丈)は、近代日本庭園の名匠・重森三玲が手がけた「八相の庭」(現・国指定名勝 東福寺本坊庭園(方丈))でも知られ、枯山水の構成美は、近代禅宗庭園の白眉として、広く世界各国に紹介されています。



東福寺本坊庭園(方丈)

方丈とは、禅宗寺院における僧侶の住居であり、後には相見(応接)の間の役割が強くなりました。当初は“東福寺方丈「八相の庭」”という名称でしたが、2014年に“国指定名勝”に登録され、改めて「国指定名勝 東福寺本坊庭園」となりました。



本堂

昭和9年に仏殿兼法堂として再建された、重層入母屋造の大建築。天井には日本画家堂本印象の作の蒼龍図が描かれています。春には明兆の大涅槃図が公開され、猫のいる大涅槃図としても知られています。



通天橋

洗玉澗を渡るため、本堂から開山堂を結ぶ橋廊。天授6年(1380年)に春屋妙葩が架けたとされます。眼下に楓の木々が広がり、秋の紅葉シーズンには京都屈指の眺望を誇ります。



通天橋の周辺庭園

通天橋周辺に広がる庭園は、構成美をもつ方丈庭園とは対照的に、自然の起伏と植栽の流れによって生み出された景観美を形づくっています。

■ 出展アーティスト ※2025年11月20日現在

ディレクター・アドバイザーボード



池田光弘
撮影: Mahiro Tsuruda



薄久保香
撮影: Kenshu Shintsubo



大庭大介



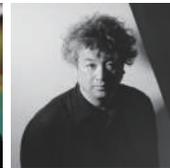
大巻伸嗣
撮影: 市川勝弘



オサム・ジェームス・中川



加藤泉
撮影: Claire Dorn



鬼頭健吾



鷹野隆大
撮影: 山崎美奈



田村友一郎



津田道子
撮影: 奥祐司



椿昇



名和晃平



ミヤケマイ
撮影: Norio Kidera



ヤノベケンジ



Yotta



ロバート・プラット

セレクトッドアーティスト for 東福寺



木田陽子
(2022年出品 公募)



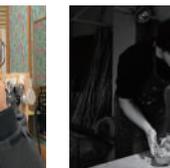
黒川岳
(2020年出品
推薦者: 金氏徹平)



広瀬菜々 & 永谷一馬
(2019年、2020年出品
推薦者: 塩田千春)



米村優人
撮影: 大澤 一太
(2020年、2024年出品
推薦者: ヤノベケンジ[2020年]、
Yotta[2024年])



リュ・ジェюн
(2024年出品 公募)

※展示エリア及び出展アーティストは、今後変更される場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトにて改めてお知らせいたします。



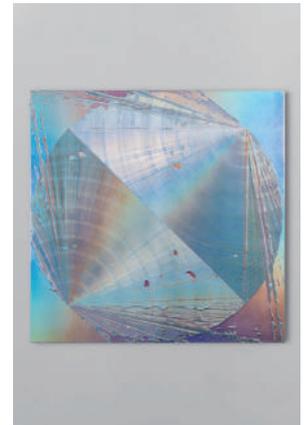
■ 出展アーティストの代表作品(ディレクター・アドバイザーボード)



池田光弘《untitled (figure no.6)》
制作年：2023年
サイズ：H194xW130.3cm
素材：Oil on canvas



薄久保香《Almond language of flowers》
制作年：2021年
サイズ：H130xW130cm
素材：Oil on panel



大庭大介《M》
制作年：2019年
サイズ：H150xW150xD6cm
素材：Acrylic, linen, wooden panel
撮影：Nobutada OMOTE



大巻伸嗣《Gravity and Grace》
制作年：2023年
素材：作品本体 | 700xφ400cm、空間 | 50x8x8m
素材：ステンレス、LEDライト
詩(床面にステッカー)：関口涼子
撮影：木奥恵三



オサム・ジェームス・中川
《Manzanar 03, Manzanar, California》
制作年：2022-2023年
素材：Archival pigment print / ED.7
サイズ：H40.6xW40.6cm



加藤泉《Installation view, "IZUMI KATO", Perrotin,
Paris, 2023》
制作年：2023年
撮影：Clair Dorn
Courtesy of the artist and PERROTIN



鬼頭健吾《untitled(hula-hoop)》
制作年：2023年
Courtesy of Hudson river Museum



鷹野隆大《レースの入った紫のキャミソ
ールを着ている (2005.01.09.L.#04)》(In
My Room) より
制作年：2005年
©Takano Ryudai, Courtesy of Yumiko
Chiba Associates



田村友一郎《見えざる手(部分)》
制作年：2022年
素材：3チャンネル・ビデオ、サウンド、インクジェット
プリント、磁器製カシラ、暖簾
映像：21分49秒



津田道子《so far, not far》

制作年：2023年

両面スクリーン映像：52分／36分、カラー／白黒、モノラルサウンド

撮 影：奥祐司



椿昇《aTTA》

制作年：2008年

サイズ：H400xW420xD460cm

素 材：FRP



名和晃平《Cells in the Grotto》

制作年：2025年

サイズ：H45.5xW95.5xD49.5cm

素 材：Mixed media

撮 影：Nobutada OMOTE

courtesy of SCAI THE BATHHOUSE



ミヤケマイ《タイトルエデンの西》

制作年：2022年

素 材：木、スチール、プラスチック、箔、和紙

撮 影：Satoshi Shigeta



ヤノベケンジ《BIG CAT BANG》

制作年：2024年

サイズ：可変

協 力：GSIX、岡本太郎記念館

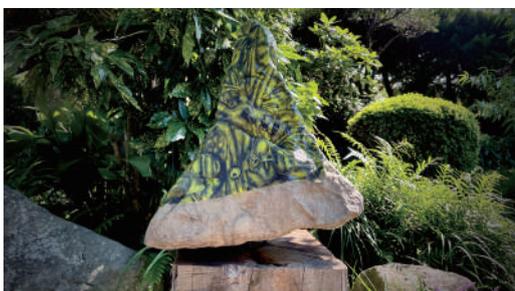


Yotta《花子》

制作年：2011年

サイズ：H1250xW500xD500cm

素 材：ターポリン、ステンレス、鉄、その他ミクストメディア



ロバート・ブラット《Natura Morte #2》

制作年：2024年

サイズ：H95xW45cm

素 材：Rock, Hewn Wood, Acrylic

プロジェクトに関するお問い合わせ

京都府、京都新聞

ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

(事務局：京都府文化生活部文化芸術課)

<https://www.artists-fair.kyoto/>

取材・掲載についてのお問い合わせ

取材依頼、画像提供、ご不明点などお気軽にお問い合わせください。

広報担当：篠原礼子 (liil inc.)

E-mail:reiko@liil.com / Cell:090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます

<https://rebrand.ly/vd4exf6>



■セレクトッドアーティスト for 東福寺



木田陽子《形 "m" 11》
制作年：2024年
サイズ：H22xW23xD13cm
素 材：陶



黒川岳《石を聴く》
制作年：2018年
サイズ：H120xW140xD130cm
素 材：花崗岩
撮 影：鈴木陽介



広瀬菜々& 永谷一馬《Why don't cats wear shoes?》
制作年：2019年
サイズ：可変
素 材：金属化ポリエステルフィルム、リンゴ



米村優人《絶縁(我ために)》
制作年：2024年
サイズ：可変
素 材：紙粘土、置いて帰った服、鉄、木材、
造木、肥料(ひまわり)、履けなくな
ったズボン、FRP、3Dモデリングで
作った耳、靴下



リュ・ジェюн《夕べ生まれ羽ばたく》
制作年：2025年
サイズ：可変設置(作品本体|40x45x60cm)
素 材：粘土、釉薬、ガラス、油絵具、酸化焼成



■ 開催概要

ARTISTS' FAIR KYOTO 2026

メイン会場

会場： 京都国立博物館 明治古都館（京都市東山区茶屋町527）

日程： 2026年2月21日（土）～2月23日（月・祝）

時間： 9:30～17:00（最終入場16:30）

AFK Resonance Exhibition会場

会場： 臨濟宗大本山 東福寺（京都市東山区本町15丁目778）

日程： 2026年2月21日（土）～3月1日（日）

時間： 9:00～16:00（最終入場15:30）

URL： <https://artists-fair.kyoto/>

<お問い合わせ>

ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

TEL： 075-414-4219（10:00-17:00 / 土日祝休み）

主催： 京都府、京都新聞、ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

後援： 経済産業省、文化庁、京都商工会議所、一般社団法人京都経済同友会

特別協力： 臨濟宗大本山 東福寺

メイン会場



京都国立博物館 明治古都館

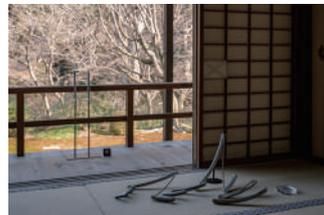


京都国立博物館 明治古都館 2025年の様子

AFK Resonance Exhibition会場



臨濟宗大本山 東福寺



臨濟宗大本山 東福寺（方丈）2025年の様子